

次世代北方型住宅に関する研究

担当部科 全科

研究の目的

北方型住宅の普及推進開始から10年が経過し、住宅水準や住宅技術は向上してきました。一方でこの間には、環境との共生への配慮や高齢社会への対応など、住宅に対する様々な社会要請の変化があり、北海道の住宅についても新たな目標像が求められているといえます。当研究はこのような認識の下で、良質な住宅ストック形成による豊かな居住環境の実現を目指す北方型住宅の新たな住宅の目標像と、その展開方策を検討することを目的として進めています。

研究概要

平成15年度は、①北方型住宅の検証(実測)調査、②住宅生産者アンケート調査、③次世代北方型住宅に向けた技術開発の方向性の検討、④地域の住宅づくりの取り組みに関する調査を行いました。

ここでは、同じく平成15年度に検討を行い取りまとめた、次世代北方型住宅基準の4つの方向性である「長寿命」、「安心・健康」、「環境との共生」、「地域らしさ」について、②住宅生産者アンケート調査結果の一部をご報告します。

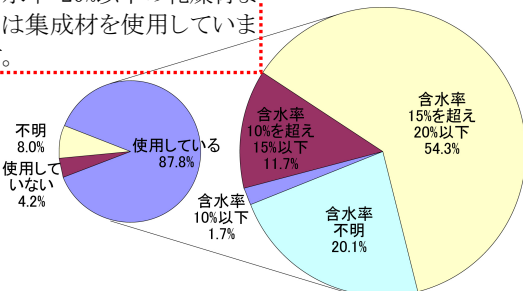
長寿命

次の世代へ引き継がれる耐久性とライフスタイルの変化に対応した耐用性を持ち、住まい手による維持管理も容易な、長寿命の住宅を目指します。

【具体的な項目】

- 高い耐久性
- 高い耐用性
- 維持管理の容易さ

ほとんどの住宅生産者が、含水率 20%以下の乾燥材または集成材を使用しています。



乾燥材(または集成材)の使用と含水率(主要構造材について)

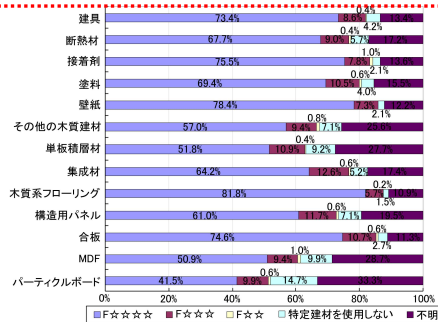
安心・健康

高齢化による体の衰えを支え、シックハウスなどの不安のない、住まい手全てにとって安心で健康な住宅を目指します。

【具体的な項目】

- 高齢社会への対応(ユニバーサルデザイン)
- 健康で快適な室内空間

建材ごとの差はありますが、ホルムアルデヒド放散量の少ない建材が定着しつつあります。



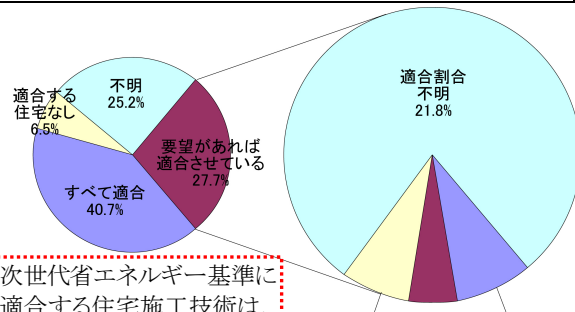
ホルムアルデヒド放散量の制限がある建材の使用状況

環境との共生

少ないエネルギーで暖かい住宅、さらには環境への負荷の低減や積雪対策、美しいまちなみなど、暮らしを取り巻く環境と調和した住宅を目指します。

【具体的な項目】

- 省エネルギー
- 環境負荷の低減
- 敷地内の雪処理
- 美しいまちなみの形成



次世代省エネルギー基準に適合する住宅施工技術は、定着しつつあります。

次世代省エネルギー基準への適合の状況

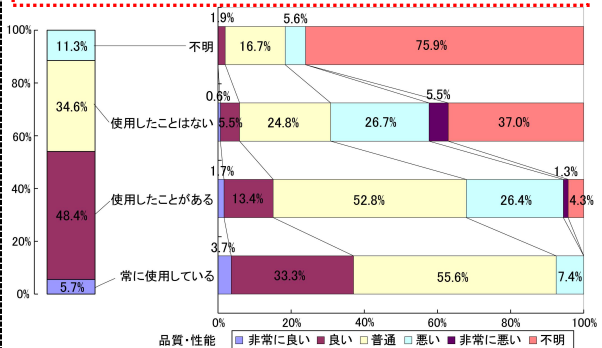
地域らしさ

地場の材料や気候・風土を積極的に活用し、暮らしの中で地域らしさを醸成する住宅を目指します。

【具体的な項目】

- 地域資源の活用

カラマツなど道内産木材製建材には、マイナス・イメージが強く使われない(一方で、使っている住宅生産者の評価は高い)という、普及に向けた課題があります。



道内産カラマツ製建築部材の使用状況と品質・性能の評価

今後の検討課題

北海道では「次世代北方型住宅仕様書」の作成及び住宅の品質と性能を確保する仕組みとして「次世代北方型住宅サポートシステム」の構築を目指しますが、本研究ではさらに詳細な分析や調査を進め、これらの推進方策に反映するとともに、次世代北方型住宅を支える技術開発や地域での住宅づくりの展開の方向性について検討を進めます。